

本革ソファをお買い求め頂いたお客様へ

匠ソファで取り扱う本革は【顔料塗装】【アニリン】【セミアニリン】の3つの仕上げです。仕上げ方法によって特徴が異なりますので、下記にてご確認ください。

尚、革は自然素材ですので個体差があります。サンプルや展示品との差異もご理解ください。

【顔料塗装仕上げ】

顔料塗装で表面をコーティングした、家具用の革として最も多い仕上げ方法です。他の仕上げに比べて発色が良く、色も均一で経年変化もほとんど起こりません。

表面が塗装膜で覆われているため、傷や汚れに強いのも特徴です。また、水分を吸わないので汚れが染み込むリスクも抑えられます。

【お手入れ方法】
乾拭きを行なってください。
取れにくい汚れが付いた時はぬるま湯で硬く絞ったタオルで拭き、水気が残らないよう乾拭きして下さい。

【アニリン仕上げ（染料）】

染料のみで仕上げた革で、革本来の質感をそのままお楽しみ頂けるのが最大の魅力です。塗装膜に覆われていないため、傷や汚れ、シミ等が付きやすいデリケートな仕上げです。また、湿度等の使用環境によって衣類に色移りする可能性もあります。

革の性質上、部位によって染まり方にムラが出るので色が均一になりにくいのも特徴です。使い込むほどに柔らかくなり、日常的によく触れる部分は艶も出るなど風合いが変化します。紫外線や経年による乾燥・退色も起こります。

【！】部分的な色ムラや、傷痕・シワの跡などのナチュラルマークが表れます。

【お手入れ方法】
乾拭きを行なってください。

【より長持ちさせるには…】
乾燥を防ぐためにはソファ革用メンテナンス用品を使用しますが、全体に均一に塗布するのは革の性質上非常に難しく、色ムラが出来ますのでご注意ください。

【セミアニリン仕上げ】

革本来の質感を残しつつ、色落ち耐性や耐光性を持たせた仕上げです。顔料塗装の革よりも塗装膜が薄いため強度は落ちますが、肌触りは非常に滑らかです。

使い込むほどに柔らかくなり、日常的によく触れる部分は艶も出るなど風合いが変化します。表面は薄い塗装膜でコーティングされているので汚れが付きにくく、お手入れが簡単です。塗装膜が薄いため傷は付きやすいです。

【！】部分的な色ムラや、傷痕・シワの跡などのナチュラルマークが表れます。

【お手入れ方法】
乾拭きを行なってください。
取れにくい汚れが付いた時はぬるま湯で硬く絞ったタオルで拭き、水気が残らないよう乾拭きして下さい。

※本革ソファの設置場所について

本革ソファは直射日光やエアコンの風が直接当たる場所などを避けてご使用ください。劣化や色落ちの原因となります。

⇒裏面では<本革クッションのメンテナンス>をご紹介します。

本革クッションのメンテナンスについて

<本革クッションカバーの構造>



本革ソファは表面から空気の出入りがしにくいいため、クッション底面や裏面に設けられた空気穴からクッション内の空気が抜けるようにお作りしています。

<本革クッションの中身>



クッションの中にはウレタン混合フェザー（もしくはフェザー）が詰まっています。フェザーの片寄りによる使用後のくたっとした座り跡も本革ならではの特徴です。クッションの形状を戻したい時には、下記の方法をお試しください。

<本革クッションのメンテナンス>



クッションカバーのファスナーを開けて中に手を入れ、フェザーバックを揉み解ほぐします。空気を含ませながら奥まで手を入れて形を整えます。（座面、背、肘などフェザーを使用した全てのクッションが対象となります。）

※ソファカバーからフェザーバックを取り出して表面を叩いてからソファカバーに戻すと、よりふっくらとするのでさらに効果的です。

★年に1~2回ほど、カバーからフェザーバックを取り出して陰干しして頂くのもオススメです。フェザークッションのお手入れのポイントは、「形を整えること」と「空気を含ませること」と「乾燥させること」です。